

# なぜ、「魂の俳人」とよばれたのか？

化石さんの病氣「ハンセン病」は、なおすことがとても難しい病氣でした。体の見た目の様子から、まわりの人に伝染すると思われ、家族へのめいわくも考えて、遠くに出て行きました。16歳のときでした。

まわりの人びとの目からかくれるように治療をしていたころ、俳句を知ります。戦争も始まり、いつ死んでもおかしくない世の中で、りっぱな俳句の先生たちとの出あいがあり、化石さんの俳句はじょうずになっ ていきます。戦後には病氣によくきく薬が出て、命は助かりましたが、その後もつらい障害が出ました。目も悪くなり、48歳で、ついに両方の目が見えなくなっていました。

そのような中でも、「心の俳句をつくる」という、先生の教えを胸にききこんでいた化石さんは、そんな自分のすべてを、そのまま受け入れるようになっていました。病氣になったつらさや悲しみ、苦しみを乗り越え、命の大切さや力強さを俳句によむ化石さんは、いつしか「魂の俳人」と呼ばれるようになり、たくさんの賞をもらっています。「化石」という名まえは、自分の体はすでに土にうまれ、石となった「もの」だと考えて、自分でつけたそうです。

「……私にとって俳句は救いであった。自然をうたい、自分の存在を作品に残せたことは喜びであった。

これからも自然とともに生きる俳句をつくりたい。自然を守り、日本語を守るためにも、俳句の火を消してはならないと思う。」

これは、80歳を迎えた年の、化石さんのことばです。

左に、村越化石さんの俳句をいくつか紹介します。

村越化石さんについてはこちら↓



## 生き堪えて 七夕の文字 太く書く(昭和26年)

施設の俳句なかまで 七夕まつりをした。男の子・女の子それぞれ  
の施設に住む 子どもたちにも来てもらい、いっしょにかざった。  
生きているからこそ、できることだと思った。

## 生きねばや 鳥とて雪を 払ひ立つ(昭和46年)

寒い雪の中でも、鳥でさえ 雪を払って立ち上がる。 「玉露の里」にある、化石さんの句碑  
私も、目が見えないという、苦しみやつらさを  
乗り越えて 生きていこう。

## 望郷の 目覚む 八十八夜かな(平成7年)

今日は八十八夜。故郷では、みんなが茶つみにいそがしい  
ときだろう。

目には見えなくとも、お茶の香りで、子どもの「ころ  
なつかしいけしきが、思いだされる。



たましい はいじん  
むかしかせき  
第21回 “魂の俳人” 藤枝市村越化石俳句大会 〈小学生の部〉 募集要項

村越化石さんは、大正11年に藤枝市岡部町で生まれました。難しい病気にかかり、家族から遠くはなれた場所に住み、治療を受けました。つらい生活の中で有名な先生に俳句を教えてもらい、すばらしい俳句を作るようになりました。戦後、新しい薬が出て、病気はなりましたが、48歳のときに両目が見えなくなりしました。化石さんは、目が見えなくても前向きですばらしい句をつくり、「魂(たましい)の俳人」と呼ばれるようになりました。平成26年3月、91歳でなくなるまで俳句をつくりつづけました。  
ぜひみなさんに村越化石さんを知ってもらい、俳句を作る楽しさを学んでほしいと思います。気軽なきもちで俳句をつくり、応募してください。お待ちしています。

★応募のきまり…1人1句です。左側の応募用紙を使用してください。

学校でとりまとめて応募してください。

必ず、一つの句の中に季語(きぎ)・きせつをあらわすことば(を)を入れてつくってください。

★選者：【新】高柳 克弘(たかやなぎ かつひろ) 俳句結社「鷹(たか)」編集長、読売新聞朝刊「KODOMO俳句」選者、早稲田大学講師

※昨年度までの選者関森氏の推薦により選任

★賞 …村越化石賞(1名) 市長賞(1名) 教育長賞(1名) 文化協会会長賞(1～2名) 入選(10名程度)

★応募締切…令和7年9月5日(金) ※学校への提出期限は学校の指示にしたってください。

★主 催…藤枝市

★応募先・問合せ先 〒426-8722 藤枝市岡出山1丁目11番1号

藤枝市役所 街道・文化課

(電話番号) 054-643-3036

★表彰式…令和7年11月29日(土) 予定 ※入賞者には事前に連絡します



3～6年生用

\*応募用紙記載の個人情報他に流用いたしません。

第21回 “魂の俳人” 藤枝市村越化石俳句大会 〈小学生の部〉 応募用紙

★学校名・学年を忘れずに。また、作品と氏名には、ふりがなをおねがいします。

作品(ふりがな)		
学校名	小学校	年 氏名(ふりがな)